

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4071100939
法人名	有限会社 めぐみ
事業所名	グループホーム めぐみ
所在地 (電話番号)	福岡市南区松原1丁目17-16 (電 話) 092-554-7633

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成19年12月4日	評価確定日	平成20年1月9日

【情報提供票より】(19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 01 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.2 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 ☒ 単独	新築 ☒ 改築
建物構造	木造瓦葺 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	45,000 円		その他の経費 (月額)	円	
敷 金	有 (円)		(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(315,000 円) 無		有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	100 円	
	または 1日当たり 円				

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護 1	2 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 60 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	酒井クリニック(内科) 松田脳神経外科(脳外科) 九州中央病院(緊急)
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の一角に位置し、民家を改装したホームである。玄関先にはベンチが置かれ、天気の良い日には入所者や近隣の小学生が訪問しそのベンチに腰をかけ日向ぼっこをしたり、雑談を交わしたりしている。職員には看護師を配置し医療連携がとられており、本人はもとより家族は安心してホームで暮らすことができる体制となっている。ホーム内は決して広いとは言えないが、入居者が肩を寄せ合いながらの生活は家庭的雰囲気が感じとられた。職員は入居者に寄り添い言葉がけなどを行っているが、自立支援に向けて必要以上の介護は避け、自分のペースで自分らしい生活を送って頂ける様な支援が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 外部4)
	前回評価では確実な申し送りの伝達、緊急時の手当てのマニュアルの整備、地域との協力関係の強化等あげられたが、少しずつであるが改善に向けて努力をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 外部4)
重点項目	管理者が自己評価を行い、それに対して職員全員で意見調整を行った。外部評価の結果もサービス向上に役立てる為に話し合いを行う
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 外部4, 5, 6)
重点項目	2ヶ月に1度開催するように計画はしているが現状は3ヶ月に1度の開催となっていた。参加は家族代表者、民生委員、地域包括支援センター職員と管理者、職員で開催している。今後、町内会長の参加が予定されており地域との情報交換・交流が深まることが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映 (関連項目 外部8, 9)
重点項目	家族からの申し出に関しては随時管理者が中心となり受け入れその後、職員で話し合いを行い対応している。意見箱の設置を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携 (関連項目 外部3)
重点項目	小・中学校の子供達との交流があるが、まだ十分な状況とは言えない。しかし、今後町内会長の運営推進会議への参加が予定されており地域交流への機会を得る様に期待している。また、地域の1人暮らしのお年寄り対象の食事が予定したり災害時の対応に関して近所と話し合いを行い対策を講じたり地域との連携を深めている。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくらせている	入居者がその人らしく、尊厳をもって、楽しく生きていくことを支援することを理念としているが、地域との関係性を考慮した理念をなっていない。	○	グループホームの基本方針は18年に「家庭的な環境の下で、より家庭的な環境と地域住民との交流の下で」に改められ、地域との関係性が重視され、これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ内容が必要となる。入居者が地域住民としてどのようにして暮らすのか、またホームが地域でどのような役割を担うのかを盛り込んだ理念となることが求められる。
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に則したサービス提供ができる様に新人教育から、定期的なカンファレンス時等に常々管理者より話しがある。職員は理念を頭に置き日頃の支援を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小・中学校の子供達との交流があるが、まだ十分な状況とは言えない。今後町内会長の運営推進会議への参加が予定されており、地域交流への機会を得ることが期待される。また、地域の1人暮らしのお年寄りを対象に食事が予定されている。	○	入居者が地域住民の1人として生活していることを実感できるように地域との交流の場を設けて頂きたい。その機会を得る為にもぜひ町内会長や老人会代表者方々とのつきあいを深めて頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず管理者が自己評価を行い、その後職員全員で確認し合っている。また、調査結果についても全員で共有しサービスの向上に役立てていくことになっていた。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三ヶ月に1度開催され、ホームの状況報告や改善課題の検討が行われている。出席は民生員と入居者の家族代表者、地域包括支援センター職員、管理者、ケアマネジャーで行政の担当者や地域の代表者の参加が無い。	○	地域の町内会長や、老人会等からの参加をして頂くホームの取り組んでいる内容を広く知ってもらい、意見交換や情報交換を行いサービスの向上に役立てて頂きたい。また、二ヶ月に1回の開催が望まれる。

グループホーム めぐみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターからの入居相談やホームからも運営相談等は適宜行なっている。日頃より互いに情報交換を行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居の方の1人に対して成年後見制度利用の支援がなされていた。しかし、職員全員が対応できる様な勉強会は特に実施されていない。また、パンフレットの資料も準備されて無い。	○	パンフレットを準備して職員全員が説明できる様に勉強会等を実施して頂きたい。
4.理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭の預かりは行わず必要な場合は全てホームで立替を行い、医療費等も立替で月にまとめて請求している。暮らしぶりや健康状態の報告は電話や面接時に行っている。また『めぐみ通信』を発行しホームの活動や職員の紹介を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は月に1回利用料を支払に来てもらい、その時に意見等を聞くようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者に対しては特に担当制にはしておらず、全員で支援するようにしている。職員全員が馴染みの関係となっており、異動があっても他の職員もしくは管理者が対応し、ダメージを防ぐようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用には性別や年齢による制限は無く、その人が人間が好きか、お年寄りが好きかを見ている。採用後は意見交換が十分出来る様な雰囲気作りに努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職社時に人権に関する研修を行い、入居者が尊厳をもってその人らしい生活が支援できる様に職員に対しては教育を行っている。また日頃より繰り返し人権については管理者は話を行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の部内研修を行っているが、その人の習熟度や経験に応じた個別の研修計画が立てられていない。	○	その人の経験年数・認知症介護の理解や習熟度に応じた事業所としての計画が必要となる。外部研修・内部研修を問わず、その人の段階に応じた研修の計画を立て、受講することが望まれる。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ソーシャルワーカーの協会に入っており、研修には参加している。同法人の別のグループホームとの合同の研修会や交流はあるが、地域の他のグループホームとの交流は無い。	○	事業所の質の向上や地域全体のサービス向上の為に、同業者との勉強会や、相互評価を通してネットワークを作り、交流や連携が行える体制が必要となる。他事業所に働きかけを行い、お互いの見学会や研修会の開催、職員同士の交流を行うことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	かかりつけ医への受診に同行して安心感を得て頂き、また、信頼関係の確立に努めている。また、家族からの情報を得て雰囲気作り工夫を行っている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は常に入居者と職員間に壁を作らないことを繰り返して職員に指導を行っている。入居者の声に耳を傾け思いや考えを共有できる関係作りに努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や、お酒が好きな入居者とは一緒に飲酒をしながら、本人の希望、思いをくみ取るようにしている。また、意思表示出来ない方には表情や行動、家族の話より好きな事、好きな物、癖等の把握に努めるようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者はスタッフより意見を聞いたり、本人・家族と話しを行い思いや希望を反映した計画の作成に努めているが、カンファレンスには本人・家族の参加がない。	○	カンファレンスには、本人や家族の参加の上で希望や意向を再度確認を行い、それが確実に反映される様、計画を検討されることが望まれる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングを実施し見直しを行っているが本人・家族との事前の話し合いがなされていない。	○	定期的なモニタリング以外に随時のモニタリングを実施して頂きたい。特に身体的に厳しい状況の方に関しては医療情報も含め、家族とも十分に話し合いを行い、介護の方針を本人や家族が共有し納得して頂ける様に適宜な実施を行って頂きたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診の支援や買い物への同行などを行い柔軟な支援を行なっている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	管理者が医療機関に以前従事していたため受診に関する対応は柔軟に実施されている。状況に応じた専門医への受診や個別のかかりつけ医への受診が適宜支援されている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を取っており、重度化した場合の指針を作成し、家族には説明を行なっている。指針には急変時の対応方法も明記されており、迅速な対応が可能となっている。本人や家族の意向に応じて医療との連携のもとでホームでの受け入れも可能としている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録等は鍵のかかる場所に保管している。写真等の掲載については予め家族より承諾を得ている。また、言葉遣いには常日頃より注意を払い、毎月のミーティングにて確認を行なっている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分でできる事は必要以上の手伝いはせずに本人のペースでできる様に支援している。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は身体的残存機能からして準備、片付けの手伝いは困難な状況である。しかし、全員が食堂に集まり自力で食べて頂ける様な支援がなされていた。また、個別に食事の内容も考慮している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴できる曜日は決めているが、希望があればいつでも入浴できるようにしている。また、浴室が狭い為、改装し広げる検討もされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の好きなこと、昔からの趣味、生活歴を活かしたことをしてもらうように、生き生きと生活できるよう支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、買い物や散歩に出掛けている。また、玄関先にはイスが設置されており思い思いに日光浴とか楽しむことができる。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関の施錠は行われていない。常に見守りができる状況である。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的に行われている。日頃より災害時には近所の方に支援して頂ける様な働きかけを行ない協力してもらうにしている。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士がたてた献立を参考にし提供されている。水分補給は定期的に行うようしており入居者の好みによりスポーツ飲料や水ゼリーを準備するなどの工夫がなされている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改装して以前よりの家庭的な雰囲気をそのまま残している。決して広いとは言えないが、その中で居心地よく入居者が過ごせるよう工夫されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を聞き、使い慣れた家具や調度・仏壇等の持ち込みがされており入居者が居心地よく過ごせるようにしている。		